

【富士学院幼稚園】とうきょう すくわくプログラム活動報告書①

1. 活動のテーマ

<テーマ>

体を動かす

<テーマの設定理由>

当園では、遊びながら体を動かすこと楽しむ運動活動を定期的に行っており、子ども達も体を動かすことに日頃から興味を持っている。当園では、体操・ダンスは毎週、サッカー教室は年に2回実施しており、運動を通じて自ら挑戦し、達成する楽しさを経験したり、身体を動かしながら表現力を高めることを目指し、子ども達の興味関心の幅を広げたいと考えたため。

2. 活動スケジュール

体操教室：火曜日

HIP HOP ダンス：水曜日

東京都サッカー協会によるサッカー教室：令和7年6月5日、令和8年1月30日

3. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・活動のために準備した素材や道具、環境の設定
- ・活動中の子供の姿・声、子供同士や教諭との関わり 等

活動のために準備したもの：巧技台、跳び箱、ローター板、サッカーゴールネット、リバウンドネット、ピブス、スポーツリバーシ、なわとび等

子どもたちの様子等：

活動の中では、先生から一方的に「やり方」を教えるのではなく、「どうすればもっと上手になるかな?」と、子どもたち自身に考えてもらう時間を大切にしました。少し時間はかかりましたが、自分の力でコツを掴んだときの喜びは特別です!「先生できたよ!」「見て!」と目を輝かせて報告してくれる姿がたくさん見られました。この「やったー!」という小さな成功の積み重ねが、子どもたちの「自分ならできる!」という自信(自己肯定感)をぐんぐん育ててくれています。

勝敗を決めるゲームでは、始まる前にチームごとの「作戦タイム」を用意しました。子どもたちは「どうすれば勝てるか」を真剣に話し合い、中には「だから、こう動くんだよ」と順序立てて分かりやすくお友だちに説明している子もいて、先生たちも驚かされました!

勝つことがすべてではありませんが、勝ったら思いっきり喜び、負けたら本気で悔しがる。そんな素直な感情を爆発させながら、何かに一生懸命に取り組む姿は、とても頼もしく、活気に満ちていました。



4. 振り返り（振り返りによって得た先生の気づき）

- 今年度から導入した巧技台では、平面的な遊びでは経験しにくい「バランスをとる」「踏ん張る」「飛び降りる」といった全身運動を促し、体幹や筋力をバランス良く養うことができました。
- 跳び箱や鉄棒は初めからできる子どもが少なかったのですが、コツを掴むと、積極的に取り組む姿勢が見られ、どんどん上達していきました。
- 声掛けでは、一方的に教え込むのではなく、「どうすれば上手くできるようになるかな?」「上手な子は何ができていかな?」と声かけを行うことで、子どもたちでできるだけ考える時間を与えるようにしました。
- チーム競技では、仲間と一緒に自分たちで作戦を立て、勝つために必死に取り組んでいる姿が印象的でした。

【富士学院幼稚園】とうきょう すくわくプログラム活動報告書②

1. 活動のテーマ

<テーマ>

光を感じる

<テーマの設定理由>

まず、子どもたちにとって身近で分かりやすいものをテーマに取り上げたいと考えた。その上で、職員間での話し合いにより挙がったのが「光と空気」であった。「光」というテーマは子ども達にとって身近なものであり、日ごろから関心がある様子が見受けられる（光の反射や光の影など）。子どもたちの「なぜ」という疑問を解決しながら、探究心を育みたいと考えたため。

2. 活動スケジュール

- ① 令和7年9月5日 10時～10時45分
- ② 令和8年2月12日 10時～10時45分

3. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・活動のために準備した素材や道具、環境の設定
- ・活動中の子供の姿・声、子供同士や教諭との関わり 等

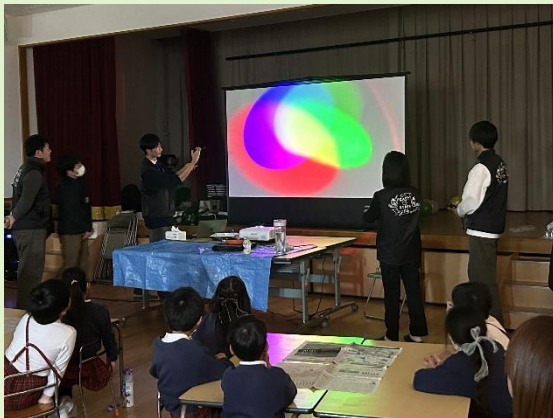
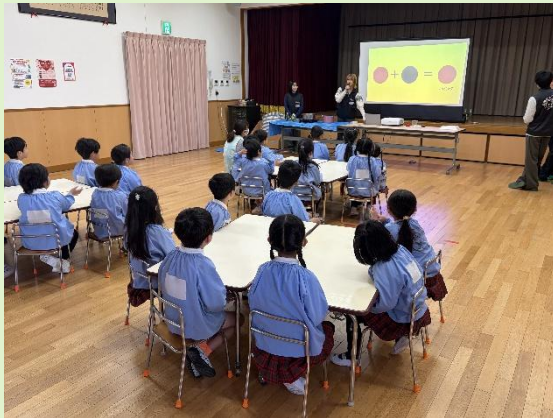
活動のために準備したもの：実験・製作に係る道具は東京大学サイエンスコミュニケーションサークル CAST が準備（委託料を含む）

子どもたちの様子等：

今年度も昨年度に引き続き、東京大学の「CAST」の皆様をお招きし、不思議な実験や工作に挑戦しました。

実験の内容は、偏光板を使った不思議なアートや、光の三原色、虹の仕組みなど本格的ではありますが、難しい言葉ではなく「身近なもの」に例えてお話ししてくれたので、子どもたちは興味津々でした。クイズの時間には「はい！」と元気に手が挙がり、正解に驚いたり不思議がったりと、大盛り上がりの時間となりました。

少し難しい工作の場面では、先生たちと一緒に力を合わせて素敵な「万華鏡」を完成させました。のぞき込んだ瞬間の「きれい！」「色が混ざった！」というキラキラした笑顔が印象的で、科学の不思議に触れ、新しい発見を楽しむ素晴らしい体験となりました。



4. 振り返り（振り返りによって得た先生の気づき）

- 難しいテーマも含まれていましたが、わかりやすい言葉で説明をしてくれたり、進行を工夫してくれたため、最後まで集中し、活動を終えることができました。
- 「どうして?」「すごい!」というような子どもたちが驚いている姿を見て、通常の保育の中でも、新しい情報を提供できるようにしたいと感じました。
- 製作では細かい作業もありましたが、事前に印や両面テープをつけていただいたので、最後まで自分の力で作り上げることができました。その結果、大きな達成感を味わうことができたと感じています。

【富士学院幼稚園】とうきょう すくわくプログラム活動報告書③

1. 活動のテーマ

<テーマ>

空気を感じる

<テーマの設定理由>

まず、子どもたちにとって身近で分かりやすいものをテーマに取り上げたいと考えた。その上で、職員間での話し合いにより挙がったのが「光と空気」であった。「空気」というテーマは子ども達にとって身近なものであり、日ごろから関心がある様子が見受けられる（風の強さや空気の温度など）。子どもたちの「なぜ」という疑問を解決しながら、探究心を育みたいと考えたため。

2. 活動スケジュール

- ① 令和7年9月5日 10時～10時45分
- ② 令和8年2月12日 10時～10時45分

3. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・活動のために準備した素材や道具、環境の設定
- ・活動中の子供の姿・声、子供同士や教諭との関わり 等を記載ください。

活動のために準備したもの：実験・製作に係る道具は東京大学サイエンスコミュニケーションサークル CAST が準備（委託料を含む）

子どもたちの様子等：

今年度も昨年度に引き続き、東京大学の「CAST」の皆様をお招きし、不思議な実験や工作に挑戦しました。

実験の内容は、メルヘンフラワー、ブLOWERでUFOを浮かせる実験、さらに空き缶が一瞬で潰れる減圧実験など、迫力満点のプログラムに子どもたちは釘付けでした。

難しいお話ではなく、身近なものに例えたクイズ形式で進められたため、「はい！」と元気に手を挙げる子が続出。「なんで？」「不思議！」という声が教室中に響き渡りました。

ブラコップを使った自分だけの空気砲作りでは、先生たちもお手伝いしながら、みんな一生懸命取り組んでいました。完成後、煙を入れて空気の輪っかが見えると「すごい、こう動くんだ！」「小さいのに力持ち！」と大興奮。目に見えない空気の不思議を肌で感じ、新しい発見に満ちた一日となりました。



4. 振り返り（振り返りによって得た先生の気づき）

- 難しいテーマも含まれていましたが、わかりやすい言葉で説明をしてくれたり、進行を工夫してくれたため、最後まで集中し、活動を終えることができました。
- 「どうして?」「すごい!」というような子どもたちが驚いている姿を見て、通常の保育の中でも、新しい情報を提供できるようにしたいと感じました。
- 空気砲等の分かりやすい実験について、子どもたちの食いつきがとても良かったです。通常の保育でも視覚的に分かりやすく伝えることが大切だと感じました。

【富士学院幼稚園】とうきょう すくわくプログラム活動報告書④

1. 活動のテーマ

<テーマ>

英語遊び

<テーマの設定理由>

当園の近くには横田基地があり、外国人と交流する機会もある。在園児にも外国籍の子どもが在籍しており、英語に関する興味・関心が高い。また、当園では外部講師による英語遊びを月に1回行っている。ゲームや音楽を活用し、英語を聞いたり発語したりすることで、楽しみながら英語に興味を持てるようにする。また、異文化に触れ、興味関心の幅を世界に広げることが目的としたため。

2. 活動スケジュール

毎月1回

3. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・活動のために準備した素材や道具、環境の設定
- ・活動中の子供の姿・声、子供同士や教諭との関わり 等を記載ください。

活動のための環境設定：ゲームやリズム運動を多く取り入れているため、保育室に椅子だけを配置し、講師・子ども達、保育者が動きやすい環境を整えた。

子どもたちの様子等：

活動の内容としては、あいさつ、天気、あいさつの歌、季節の単語、TPR（全身反応教授法）、歌、アルファベットの名前と音、単語と表現、アクティビティ、絵本の読み聞かせ、まとめ、さようならの歌、終わりのあいさつ等を実施しました。

初めは「Hello!」と言われるだけで恥ずかしそうにし、声が小さかったりしましたが、ゲームやリズムあそびを多く取り入れているため、楽しみながら英語あそびをすることができました。後半になると、講師からの問いかけに対し、多くの手が上がるようになり、英語で回答できるようになりました。「very good!」と言われるととても嬉しそうにしている姿が印象的でした。



4. 振り返り（振り返りによって得た先生の気づき）

- あまり英語に慣れ親しんでいない子に対しては、担任やフリー職員がそばで一緒に歌ったりすることで、親しみやすい環境を整えることを意識しました。
- ゲームやリズムあそびは子どもたちが積極的に参加しやすいことを改めて実感したので、通常の保育でもゲーム等を取り入れて楽しい保育をしたいと感じました。
- 登園の際に「Hallo! 」とあいさつをしてくれる子どももあり、少しずつ英語が習慣化しているように感じました。



学校法人富士学院

認定こども園 富士学院幼稚園